

方針に基づき進める主な3つの取り組み



【育みたい力】

次代を切り拓く力

主体的に社会を生き抜くことができる人間力

小中一貫教育

【取り組み】

- ▶義務教育の9年間で系統立てた学びにするためのカリキュラムや体制をつくる
- ▶小学校高学年の教科担任制導入検討

【効果】

- ▶小学校から中学校へ上がるときの段差につまづきにくい
- ▶多様な集団活動ができる
- ▶教科の専門性に対応できる

など



コミュニティ・スクール

【取り組み】

- ▶全小中学校にコミュニティ・スクール導入（モデル校で先行的に実施）

【効果】

- ▶学校、地域・企業、家庭が目標を共有して子どもを育てることができる
- ▶組織化することで継続的な活動ができる
- ▶学校と地域の相互理解が深まる

など



学校再編計画

【取り組み】

- ▶義務教育9年間の一貫した教育を実施するための、安心・安全で学びやすい学校施設をつくる

【学校の環境】

- ▶高機能・多機能で変化に対応できる
- ▶防災、防犯機能を備える
- ▶地域と連携できるスペース、施設の複合化・共有化
- ▶1学年3学級以上、建築後20年は単学級にならない規模



望ましい教育環境のあり方に関する方針をつくりました

方針について

平成31年3月に策定した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」は、子どもたちが学びやすく、魅力ある教育環境を実現するために、どのような教育の体制や施設を目標としていくかを示したものです。

主な対象は小中学生で、2030（令和12）年度を目標準年度としています。

なぜつくったの？

現在、AIなどの技術革新やグローバル化の進展、人口減少や少子高齢化の進行で、社会が大きく変化しようとしています。

市は、これらの変化に対応し、これからの時代に求められる教育を実現するため、地域や学校施設の現状を踏まえ

て、どのような教育環境をつくっていくか検討することしました。

「次代を切り拓く力」

これからの予測困難な社会でも、主体的に社会を生き抜くことができる人間力を身につけることが、子どもが自分の未来を切り拓く力となると考えます。

市ではこの「次代を切り拓く力」を、義務教育9年間の学びを通して育みます。

今後進めること

「次代を切り拓く力」を育むために、キャリア教育を軸とし、義務教育期間の9年間をつなぎ、系統立てて学ぶことができるよう小中一貫教育を進めます。

なく、地域や企業が一緒に子どもを育てる仕組みである「コミュニティ・スクール」を進めます。

学校施設については、安心・安全で学びやすく、クラス替えができる規模の小中一貫校の実現を目指します。

方針には、5つの施策と13の取り組みが盛り込まれています。詳しくは、市のホームページで見ることができます。

牧之原市 あり方方針

検索



進め方

小中一貫教育、コミュニティ・スクール、学校再編の3つについて、本年度から検討を始めます。

項目	内容	主に検討する人	スケジュール		
			～2020(令和2)年	～2022(令和4)年	～2030(令和12)年
小中一貫教育	●9年間のカリキュラムづくり（キャリア教育・教科） ●施設分離型の小中一貫教育から段階的に試行・実施	教職員	キャリア教育・英語・ICT	その他の教科	小中一貫教育の推進 分離型から一体型へ
コミュニティ・スクール	●地域性を活かした組織づくり ●モデル校で先行的に検討・実施	教職員、地域・企業、PTAなど	モデル校 準備・試行・実施	モデル校以外 準備・実施	学校間連携の推進
学校再編計画	●学校区、立地、機能、スケジュールなどの検討	専門家、市民などが入った審議会	再編計画決定	学校整備基本構想	学校建設など